

人世界が舞台

さ さ き きぬ こ
佐々木衣子さん 46

シンガポールの国立博物館やアジア文明博物館などに来場する日本人観光客に、展示内容を紹介する日本語ボランティアガイドを13年間続けている。その実績がシンガポール政府に評価され、今年3月、情報通信芸術省から特別功労賞を贈られた。

シンガポールの日系企業駐在員の妻ら7人が登録、28年の歴史がある日本語ガイドグループの中で最優秀で、受賞は「経験年数が最長だったから。グループ全員が



元祖「歴女」の観光案内

「何とかしなきゃ」。そんな思いに駆られながら気分転換で訪れた国立博物館。さつそうとした日本人ガイドの女性と出会ったのを機にガイドになることを決意した。「主婦をしながら、奇麗に服を着こなし、てきぱきと客の質問

■シンガポールの博物館で日本語ガイド

略歴 新潟県妙高市生まれ。同県立新井高卒。1984年、旧土浦短大を卒業し、大成証券に入社。シンガポールでは博物館ガイドの傍ら、欧米駐在員の妻らを対象にちぎりの絵講座を主宰するなど日本文化の紹介にも取り組んでいる。

に答える姿にあこがれた」ガイド当番は月に3日ほどだが、歴史を中心に覚えることは多い。歴史に詳しい日本人客もおり、手ごわい質問に面食らうこともある。このため、地元の中学・高校の教科書に始まり、文化、芸術など様々な書物を家事の合間に読みあさり、どんな質問にも対応できるように努めている。中でも苦慮したが、日本軍が同国を占領して「昭南島」と改名した戦時中の展示紹介だ。占領方法や虐殺など、日本人客に説明して感情的反発を招く場面も少なからずあった。「日本人として迷いもある。だが、シンガポール人があるような見方をしているのかを日本人は知っておくべきだと信じて、展示内容を忠実に伝えようとしている」と話す。

小学校教諭だった父の影響で幼少期から郷里の英雄、上杉謙信にあこがれた「生粋の歴史ファン」。中学、高校で歴史の試験はほぼ満点だった。今も帰国のたびに城跡や神社仏閣を巡る。歴史好きな女性「歴女ブーム」には「私はいわば元祖歴女。時代がやっとなつてきたのかも」と笑う。

これまでにガイドとして担当した日本人観光客は3000人以上。「歴史や文化の背景を詳しく知れば、旅行も100倍楽しくなる」と伝え続けたい」と話す。(シンガポール 岡崎哲、写真も)